

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

# オリンピック教室

実施報告書

群馬県 高崎市立吉井西中学校







平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

#### 挨拶（5分）

#### 準備運動（10分）

#### 主運動（30分）

#### まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

#### 挨拶・自己紹介（10分）

#### オリンピックの価値を伝える（10分）

#### グループワーク（20分）

#### まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

# 実施内容



- 期 日 : 平成30年6月6日 (水)
- ク ラ ス : 2年1組 (28名)、2年2組 (26名)
- オリンピアン : 荻原 次晴 先生 (スキー・ノルディック複合)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

## 1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介をした後、今日はオリンピックがより身近に感じられるような時間にしていきたいと授業の目的を確認。
- ・競技について簡単に紹介し、8の字跳びを通じて運動の時間は皆に「ジャンパー」になってもらいたいと伝え、準備体操へ移る。

## 2. 準備体操



## 3. 主運動



- ・2班毎 2 チームに分かれ8の字跳びを実施。引っ掛かっても連続して数えることとし、90秒間で跳べた回数を競い。1チームずつ挑戦し、相手チームは応援しながら、大きな声で数を数えることとした。荻原先生より失敗してもチームメイトと励まし合ったり、「ドンマイ！」と声を掛け合っていて、クラスの一体感を感じることができ、とてもよかったと伝える。

## 4. まとめ



- ・運動の時間では体を使って楽しんでもらったが、座学の時間では頭を使っていこうと伝える。
- ・オリンピックバリューはオリンピックで大切にしている価値観だと説明し、座学の時間でより詳しく説明すると予告し、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



・映像を見せながら自己紹介。双子の兄である健司氏と共に、長野大会に出場して入賞を果たし、日本一有名な双子と言われるようになったこと等を紹介。オリンピックに出場したことで、努力すれば目標に近づくことを学び、様々な人の助けや応援があったからオリンピック出場という夢を実現することができたと話し、荻原先生にとってのオリンピックバリューを説明。

3. グループワーク



発問：学校生活を振り返り、オリンピックバリューを感じるのはどういう瞬間か考えてみよう

発表：各班の代表者1名が前へ出て発表。（抜粋、順不同）

部活でベストを尽くした時、球技大会でいい結果が出た時、自分の目標や皆の目標を達成した時(エクセレンス)、友達と出会った時、友達と一緒に何かを達成した時(フレンドシップ)、お互いを認め合った時、思いつかないアイデアが出た時(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



・皆の発表を聞いてオリンピックバリューは皆の心の中に既に存在していると感じた。東京2020大会の際は群馬県内や皆の学校にもオリンピック選手がトレーニング等で訪れるかもしれないので、世界中のアスリート達を笑顔であたたかく迎えてあげてほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真

2年1組



2年2組





■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



■ 修了書贈呈

